

公共選択学会会長就任の報告

公共選択学会会長 和田淳一郎

第8代会長にお選びいただいた、横浜市立大学の和田淳一郎と申します。

本学会の創設者、加藤寛先生には、大学院生時代から目をかけていただいておりますが、加藤先生の薫陶を直接には受けていない初の会長となります。

Public Choice Societyは、アメリカにもヨーロッパにもオーストラリアにも韓国にもあるわけですが、日本の公共選択学会は「加藤先生の学会」と言われたこともありましたが、研究誌『公共選択の研究』の1981年における創刊は、1996年6月22日の学会設立よりも早く、加藤先生のポケットマネーで発行されていたわけですし、『公共選択の研究』を機関誌としてお認めいただくことにより、公共選択学会は、年会費3000円という、当時でもありえないような安い会費ながら、学会設立段階から、日本学術会議協力学術研究団体として、学会名鑑に載るような、公に認められた学会としてスタートを切ることができました。

昨今の学会には、直接的な社会貢献も求められているように感じていますが、加藤先生は、研究誌『公共選択の研究』に私財を投じてまで、後進の育成に心を砕いておられ、それは、「公共選択学生の集い」最優秀賞に、加藤賞という名前が使われたことを大変喜ばれていたことにも繋がっていたかと思っております。加藤先生の思いの詰まった「公共選択学生の集い」、私は本学会の苗代のように思っておりますが、多くの研究者がそこで芽を出しており、現在の学会の中核メンバーにも出身者が多く、今後も大事にしていきたいと考えております。

ただし、インターネットの一般活用に道を開いたWindows95が出た翌年、1996年の公共選択学会「設立の趣旨」に既に刻まれていたマルチメディアの発展は著しく、学会誌『公共選択』のデジタル化や、PC研のオンライン活用は急務であり、皆様のご協力と共に、マルチメディアの発展に合わせた公共選択研究の興隆を図りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。